

～開業奮闘記～

# 誰が興味あるねん

八 治 屯

## 第47話 「思い出のO坪君」

僕が子供の頃は周りに本当に個性的なやつがたくさんいました。今回はその中でも特に異彩を放っていた「O坪君」の話をしたと思います。

小3の時にクラスメートとなったO坪君は本当に変わったやつで、とにかく感情をむき出しに生きていて「喜怒哀楽」全ての感情がメーターを振り切っているような男でした。

ある日いきなりブチギレしだして、「**ここから飛び降りてやる！！**」と、3階の教室の窓から飛び出しそうになった時は本当に焦りました（とにかく掴んで引きずり倒してことなきを得た）。

そんなO坪君は僕と同じ神戸生まれ神戸育ちで、もちろん方言は当然関西弁のはずなのですが、なぜか彼は常に関東弁なんです。僕は彼の弟とは仲良かったのですが彼は関西弁でしたし、彼の弟も「**あいつやばいやる・・・？**」と言っていたのが印象的でした。

当時は今と違って、関西では関東弁は嘲笑の対象になるところがあり、それも相まってO坪君の存在はさらに異質なものとなっていました。

私は非常に悪ガキだったので彼にしょっちゅうちょっかいを出していたのですが、そのたびにO坪君はすぐに先生にチクる（告げ口する）のでいつも僕は先生に怒られていました。

**ただ、そのちくり方がめちゃくちゃ腹立つんです・・・！**

**「僕の給食のエビカツレツを村田が勝手に食べたんだっつーの！！」**

**「さっきオシッコしたら、村田が後ろから膝カックンしてきたんだっつーの！！」**

**「僕のノートに村田が勝手にベンキマンの落書きをしたんだっつーの！！」**

と、いちいち「**だっつーの！！**」という言い方で先生にチクリやがるんです。

その言い方が腹立って腹立ってまたO坪君にちょっかいをかけてしまう・・・という負のスパイラルが止まらない毎日でした。

さて小学生にとって運動会は楽しいイベントですが、果たして「紅組と白組の勝敗」に重きを置いている人はどのくらいいるでしょうか？ 少なくとも僕の周りでは勝敗なんて全く気にしている人なんていませんでした。

**ただ一人O坪君を除いては・・・！！**

運動会の最後に勝敗を先生が告げ、O坪君の所属している組が負けたと分かった瞬間・・・彼はドラマのように膝から崩れ落ち、

**「もう僕はダメだ・・・！！負けた・・・負けた・・・僕は負けたんだ・・・！！！！」**

と、頭を抱えて大号泣するんです。

後にも先にも、小学校の運動会の勝敗を

**「夏の甲子園で延長12回に逆転満塁サヨナラホームランを打たれたピッチャーのモチベーション」**

で捉える人間はO坪君しか知りません。

そんな彼と小6でまた同じクラスになるのですが、彼の個性はさらにパワーアップしていました。

**次号に続く！！**